

昔ともいうたが、目録などには矢張り島海苔と書いた。

シマノリマサ 志摩則正 鹿島郡七尾の人。通稱吉左衛門。志摩吉兵衛好矩の子。算學をその父及び富山の高木久藏允胤に學び、文政中指南所を開いて教授したが、後家産衰へて、父と共に乗船を業とし、天保十三年九月に歿した。

シマハツカ 島八ヶ 鹿島郡能登島を能登島庄とも島八ヶ庄ともいひ、後世略して島八ヶと稱へた。文明十三年向田代官氏吉の判書に、島八ヶ村として野崎・須曾・飯・浦(半・浦)・鉤(曲)・向田・間無關・エノミ(鰻目)・蜂崎(八ヶ崎)を挙げ、その間と無關とは後世兩村であるものを一つとしてゐる。能登島庄は初め此等八ヶ村であつたが、次第に繁衍して廿一ヶ村となり、その内八ヶ崎領の泊が絶えて二十村になつた。

シマバヤシホリユウ 島林甫立 金澤の俳人。父橋太甫晚年明を失ひ、甫立代つて諸國の風客と交るを以て、自らその技に熟し、明治十四年六月暮柳舎六代を繼席した。四十一年五月十九日六十七歳を以て歿。

シマバラノラン 島原の亂 寛永十四年切支丹教徒の島原に亂を起した時、前田光高は自ら討伐の任に當らんことを請うたが、幕府は未だ之を煩す要がないとして許さなかつた。因つて加賀藩は、山崎小右衛門を使節とし、持筒足輕堀部加左衛門・足輕武部久左衛門を目附として従軍せしめたが、十五年二月城陥つた日、久左衛門は賊の首一級を得たから、後祿百石を興へられ、歩組に進められた。

シマハリケンチ 地廻檢地 ↓ケンチ 檢

地。

シマベツシヨ 島別所 鹿島郡能登嶋庄の別所を、明治中に至つて島別所と改めた。

シマヤヨソベエ 島屋與三兵衛 ↓カハシママサノリ 河島正卿。

シマヨシカネ 志摩好矩 通稱吉兵衛。鹿島郡七尾に住し、家を丹後屋といふた。その祖は同郡能登部より出で、資産に豊かで、藩の用達を勤めた。好矩算學を好んで富山の高木久藏允胤に學び、寛政十年算法矩合を著し、その他算法點竄解・算術解の稿があり、文政六年九月には久麻加夫都阿良加志比古神社に算額を奉納したが、後に衰微して舟乗りとなり、天保九年四月歿。好矩の用ひた算盤は上段一顆下段五顆二十四桁のうち、左から十二桁の次と十三桁の間に堅刺を設けたものを、更に八段に重列したもので、高次開方に於いて方眼紙に算木を布く代りに算盤を使用する工夫とし、六乘開方までに使用し得られ、全國に曾て見なかつたものである。

シマヨヘエ 島與兵衛 石川郡八日市なる高木氏に生まれ、松任の島氏の家を嗣いだ算學者で、古算を好み、數の威力を語り、子弟に教授した。明治廿二年十二月三十日五十八歳を以て歿。

シマリダカ 縮高 百姓の犯罪又は逃走等によつて、藩に沒收せられた高をいふ。村役人をして作配せしめ、その作徳米を賣却した代銀を上納せしめた。但し變死人又は牢死人の持高は、場合によりてその男子に興へられたこともある。

シマンゴクウラ 四萬石浦 石川郡相川・石立等手取川に近い約四萬石の田地で、一向

一揆時代に所謂河原組と稱し、安吉家長・窪田綱盛が相繼いで領した所といふ。

ジマンザイ 地萬歳 ↓マンザイ 萬歳。

シマンロクセンニチ 四萬六千日 舊七月九日城下觀音院で行はれる觀世音の祭日を四萬六千日といひ、順禮の詠歌を高唱して宵から曉に達した。この日玉蜀黍を食すれば禍を免れると信ぜられる。蓋し山崎美成の三養雜記に、四萬六千日は觀音欲日の一つで、七月十日に當るとせられるから、金澤で九日とするのはその速夜であらう。同書にまた、江戸でこの日玉蜀黍を賣ることは、文化の末に初り、雷除の効があるといふから、金澤で除災招福の意に解するのは稍意の轉じたものである。

シミツ 清水 江沼郡那谷谷に屬する部落。江沼志稿に、清水村清泉と題し、村の後背に井戸輪三ヶ所あつて、九夏三伏にも潤れぬとある。村名は是に由る。この村の社を天王湯御前社といふた。

シミツ 清水 能美郡輕海郷に屬する部落。明治八年十月二曲と併せて出合とした。

シミツ 清水 河北郡小坂庄に屬する部落。明治中戸室清水と改めた。

シミツ 清水 河北郡井上庄に屬する部落。津幡宿の中央部を占めてゐる。

シミツ 清水 鳳至郡櫛比庄に屬する部落。鄉村名義抄に、村内に清泉があるに依つて名を得たとある。

シミツ 清水 珠洲郡西海郷に屬する部落。能登名跡志に、『清水村、仁江より八町あり。皆鹽田にして、御鹽藏所々にあり。此所は難所多く、道阻敷といへども、山水の眺盡きず。鹽藏の休、岩間の人家の風情、又類ひなきな

がめ也。』とあり、又能登誌に、『清水村の磯に義經の割り給ふとて、三つにわれし大石あり。一つわれのきたる石上に水溜りて、如何なる日照にも乾くことなし。此水にて目を洗へば、何たる眼病も癒ゆるといへり。』と見える。

シミヅイマエ 清水今江 羽咋郡堀松庄に屬する部落。

シミツカツトモ 清水勝知 通稱内藏太・八右衛門。延寶二年養父多十郎の遺知百石を襲ぎ、御作事奉行・昌光院附御用人に歴任したが、安永中亂心して印牧茂兵衛を傷つけた爲、知行を召放され、十人扶持を給うて一門預となり、天明四年歿した。

シミツカンノン 清水觀音 鹿島郡萬行にも眞言宗清水寺といふがあり、觀音を本尊としたが、明治の後清水神社となり、更に萬行神社に併合せられた。

シミツギヨクシユウ 清水玉淵 金澤の畫家。諱を顯といひ、森西園の門人である。藩末から明治初年の人。

シミツキンザブロウ 清水金三郎 諱は直信。本多氏に仕へて徒組に班した。明治元年越後に出征し、二年二月凱旋。尋いで主君本多政均の暗殺せられるに及び、復讐の同志に加り、四年十一月廿三日日本多彌一等の岡野梯五郎を倒すや、直に之を小立野に向かひたる矢野策平等に報じ、策平等が菅野輔吉を襲撃した際、その門前警戒の任に當つた。之を以て五年十一月四日禁錮十年に處せられたが、後減刑せられて十一年二月出獄し、廿九年三月歿した。享年四十九。

シミツクヘエ 清水九兵衛 初代右甫京都